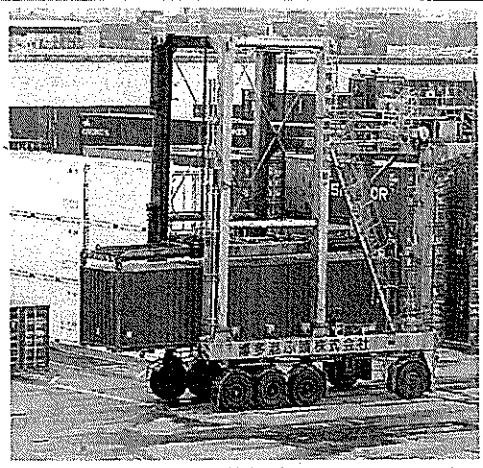
2012年（平成24年）8月7日（火曜日）

荷役車両を非常電源に

搭載発電機活用 コンテナに供給

博多港ふ頭

博多港を管理する福岡市の第三セクター、博多港ふ頭（江頭和彦社長）は電力不足時に、貨物コンテナを運搬する大型荷役車両を冷凍・冷蔵コンテナの電源として活用する。車両の動力源となるディーゼル発電機などに専用の電源回路を新設し、コンテナに送電できるようにした。全国初の試みとされ、電力不安の中で港湾や物流業界で同様の取り組みが広がる可能性がある。



電源回路を設け、荷役車両とコンテナをつないだ（博多港で稼働する荷役車両）

コンテナの積み上げや積み下ろし、搬送に使う高さ約11メートルの荷役車両「ストラドルキャリア」に搭載しているディーゼル発電機を活用する。発電機は軽油を燃料とし、通常は発電した電力でモーターを稼働させ、車両を動かしている。

この発電機と港湾内の受変電設備に専用の電源回路を新設。配電盤を介し、セ氏マイナス20度の冷凍機能があるコンテナなどに送電できるようにした。

九州電力が電力不足時に実施する計画停電などで電力供給が止まっても、約10分後に約120個のコンテナに約240キロワットの電力を12時間以上送れる。これにより、コンテナの冷凍・冷蔵機能を維持でき、温度管理が欠かせない生鮮品や冷凍食品の品質を保てる。

博多港の国際海上貨物の取扱量は2011年に85万個（20フィートコンテナ換算）と過去最高を記録し、今年1～6月もほぼ前年並みで推移している。ただ、九電管内では今夏、電力不足時に計画停電が実施される予定で、冷凍・冷蔵コンテナを抱える港湾施設では電力の安定確保が課題になっていた。

日本経済新聞（九州経済面）